

## ハナ・ハト・マメ・マス……

### 沓掛教男（山内）

大正の頃の長谷尋常高等小学校は一部二階建南向きの長い木造の瓦葺の建物でした。運動場の東側と西側に桃の木、前に梨の木が植えてあり、東側の入口の階段を上ってきた所にしだれ柳が有りました。

大正九年四月八日、母につれられて入学式に行きました。当時の一年生は新しいかばんに石筆と石板、国定教科書に殆んど生徒が麦飯に漬物程度の弁当で私もそうでした。それでも喜んで通学したものです。

一年生の担任は伊東学先生。先ず、カタカナの、ハナ、ハト、マメ、マス、ミノ、カサから指導をうけました。服装は服を着ているもの四十九名中三、四名、無論私は着物でした。そしてわら草履です。朝学校に行く時新しい草履のないときは破れ草履、帰りはハダシ。あばれる私はそんなことが度々ありました。

二年担任木本富太郎先生、三年担任三代ヤヲ先生。この頃足袋の破れを母がつくろつてくれるんですがすぐ破れ、足袋の先から親指が出て

いることが多かった気がします。

四年担任広瀬馮作先生。この年大正十二年九月一日、関東大震災がありました。今とちがってテレビもなく先生から話をきいて驚きました。被災地の子供にお金か品物を少しづつ出しかつて送ったのを覚えています。

五年担任田尻主衛先生。この頃から少し工夫がついて草履の裏に自分で自転車のタイヤをきつてはりつけ長もちするようにしたものです。

六年と高一担任佐藤伊津雄先生、高二阿南喜誉美先生、女生徒は高一から、ハカマをはいて女らしくなつたようです。この頃の教室は高一と高二は隣り合わせて間仕切りに戸が立ててあつて学校の行事の時、一般村民の集合の時等に戸をはずして会場に使用したものです。今の前の校舎は昭和二年度末新築に着工、昭和三年一月落成しました。

昭和三年三月二十八日、新校舎第一回の卒業生です。落成式の催しに各部落の青年団の仮装行列があり、こつた衣装やこつけない身ぶり今

でも目に浮かんでくるようです。盛大なにぎわいでした。新校舎の着工から落成まで、其の間松巖寺の裏の川原のバラック校舎、床は砂と石、運動場はなし。環境は悪いが魚取りは出来るし、川の向こう岸でカズラに下がったりしたものです。今は亡き人ですが安藤竹松さんが文房具の店を小さな小屋に出していました。みんな頑張つて勉強したもんです。バラックに移る時、新校舎に帰る時、高学年ですから先生と共に荷物を選びました。

新校舎落成記念として在郷軍人の方と私共が植えた桜が何本か残つて今も花を咲かせています。樹齢約六十年今後とも思い出の桜と共に小学校に花を咲かせて行く事を願つて止みません。百年の歴史の中立派な人が数多く巣立つてゆきました。教育環境の整備と共に学校の誇れる人材が多く出ることを信じています。

最後に開校百周年実行委員会の皆様方の御労苦に敬意を表します。